

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473000584	事業の開始年月日	平成15年4月1日
		指定年月日	平成15年4月1日
法人名	社会福祉法人 横浜YMCA福祉会		
事業所名	大和YMCAグループホーム		
所在地	(242-0017) 神奈川県大和市大和東3-3-16		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年10月14日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者皆さん、一人ひとりが安心して、楽しく毎日を過ごしていただくように、全職員が入居者皆さん一人ひとりのことを考えています。仕事に責任を感じ、役割を持ち支援をしています。月1回の入居者ケースカンファレンスでは、各入居者担当者が身体・精神状況などモニタリングを実施、日常の様子をまとめ、変化などを出席者で検討し、統一された対応を確認しています。それが介護計画に反映されていくよう共有します。日々の生活の中で、入居者皆さんが出来る力を職員が引き出していけるように、見守り主体的な動きを見ながら介護、働きかけを行なっています。食事準備、片付け、洗濯、掃除など職員と入居者が一緒になって行なっていくために、一人一人の特徴や性格等の配慮をしながら働きかけ実施に繋ぐ努力をしています。衛生を保つ、リラックスタイム、良眠への誘導、楽しみ、運動、また、職員が入居者の全身状態を把握するために必要と考えて、入浴支援をしています。季節を感じていただけるような行事も、いつもの生活とは違った表情を見せて楽しんでいただけるように実施しています。いつも笑い声が絶えない楽しいホームにしていくために、「思いやり」「尊敬心」「誠実さ」「責任感」この4つの価値に注目し、スタッフ一同、日々の利用者の生活をサポートしています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月16日	評価機関 評価決定日	令和5年1月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は相模鉄道線・小田急線「大和」駅から商店街を通り、徒歩約8分の住宅とマンションが建ち並び、買い物に便利な立地環境にあります。建物は4階建てで1階はデイサービス、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、地域交流支援センター事業、2階は小規模保育園、3階・4階がグループホームとなっていて2003年に福祉の充実を目指して開設されました。

<優れている点>

事業所独自の理念は「一人ひとりを大切にします」を開設時に作成し、入居者がゆったりとした生活を送ることができるように、職員は「責任感」、「思いやり」、「誠実さ」、「尊敬心」を目標にして日頃の介護の実践につなげています。平成20年に自治会や消防署、地域消防団と地域防災協定を結び災害の訓練などの協定を結んでいます。入居者は地域の阿波踊りに観覧席に招待されて見物し、併設のデイサービスや保育園の園児の歌や踊りを楽しみ、地域との交流を図っています。医療面では医師と看護師が連携し、入居者の健康管理と医療相談を行い、安心して医療を受診できる体制にあります。

<工夫点>

家族には毎月入居者の日常の生活面、健康面、誕生日会やクリスマス会などの行事、往診医からの健康状態を家族に知らせ安心につなげています。コロナ禍のため中止となっていた面会は緩和して入居者との喜び楽しみとなっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	大和YMCAグループホーム
ユニット名	Aユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「一人ひとりを大切にします」という分かりやすい理念を作り、一人ひとりの今まで生きて来た過程を尊重し、個別対応を心がけ、持っている思いを大切にしていけるように理念を共有しています。	理念は開設当初のスタッフが話し合いで作成し、玄関と3階・4階の事務室に掲示しています。管理者は新入職員の研修時に説明し、職員は日頃の介護の中で確認し合い、理解を深め実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	事業所は町内会に参加、自治会の防災訓練に場所を提供し、グループホームの避難訓練も一緒に行っています。祭りの時など、職員が手伝いに出かけています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できていない状況です。	正月には深見神社へ初詣に行き、防火訓練は地域との防災協定を結び、協力を得ています。地域の阿波踊りには招待され、ボランティアが歌やおカリナ演奏に來訪し、保育園の園児と一緒に歌や踊りを楽しんでいます。現在はコロナ禍のため中止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護者教室などを開催する包括支援センターへの協力を行なっています。自治会の防災訓練など、地域の方々が集った場所で認知症の人の生活や理解力、支援方法などの話しをさせていただいています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できていない状況です。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一回、定期的に運営推進会議を開催しています。行事や利用者の状態、また、ホームで対応に困っていることなどを報告し、アドバイスをいただいています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で書面での開催での実施という状況です。	会議は地域代表、大和地区社協職員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、館長などをメンバーとし開催しています。会議では運営状況や活動報告、行事予定などを行い、サービスの向上に活かしています。現在はコロナ禍のため書面報告をしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	二ヶ月に一回、定期的に開催している運営推進会議、大和市グループホーム連絡会にて報告しています。他、随時連絡、相談しています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で書面での開催実施という状況です。	管理者は大和市介護保険課へ運営面や業務上の問題点などを相談しています。介護保険の更新手続きに家族に代わって立会いを行っています。大和市社会福祉協議会主催の第2回「福祉の魅力を伝えるプロジェクト」に出席しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	勉強会、ケースカンファレンスの中で、身体拘束について学んでいます。言葉遣いも含め、職員が共有して拘束をしないケアの理解を深め、実践を心がけています。家族の理解をいただいて、玄関は施錠しています。	身体拘束適正化のための委員会があり、事例に基づいて検討し、毎月の会議の中で職員と話し合い、正しい理解に努めています。言葉の拘束については「そちらへ行かないで下さい」を「こちらに来ていただけますか」などと声掛けし言葉遣いに留意しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケースカンファレンスの中での勉強会やケース検討会議の中でとりあげています。また、言葉遣いなども再検討し、全員で話し合える時間を作っています。	職員は虐待防止については、身体拘束と同時に事例に基づき学び、ケアカンファレンスの中で話し合い、お互いに留意し合って、正しい理解に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や外部研修会の中で学ぶ場を設けています。必要に応じて資料を配布し知識を高めています。利用者に関わらず、家族から相談があれば、地域包括支援センターと協働し、成年後見制度などの説明を行い、アドバイスしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の問い合わせ、申し込みに応じて見学、アセスメントを行い、相談を受けています。契約時、解約時、改定時に不安や疑問点を聴き、説明を行なっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族面会時に積極的に会話をし、利用者の近況を報告し、ホームに対する意見を伺っています。本人には、日々の生活の中で意見を聞き出しています。また、運営推進会議で家族の意見を聞いています。苦情窓口が市などにあることを契約時に説明しています。カンファレンス時においてもそういったご意見等を反映する機会として用いております。	運営推進会議や家族の来訪時に意見や要望を聞いて運営面に反映しています。面会中止で電話やショートメールを行っていましたが、家族から面会をしたいという要望があります。現在はコロナ禍のため、感染防止を図りながら制限付きで面会を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常業務は職員が主体で行えるようにしています。日々、管理者に意見や提案をしています。勉強会、ケースカンファレンスで意見交換をし、業務をスムーズに行えるようにしています。	管理者は毎月1回のユニット会議や朝・夕の申し送り時に職員から意見や要望を聞いて運営面に反映しています。職員からローテーションのために伝達事項が十分に徹底しないとの意見なども出ています。建物の館長が巡回時に職員から意見や要望を聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談を行い、意見交換しています。また、随時代表者へ管理者が職員の状況を報告し、把握するように努めています。	館長と管理者は年1回、職員と面談し職場環境などを話し合っています。職員は健康診断を受け、健康管理に努めています。夜勤者は年2回の健康診断を受けています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は管理者に対し、職員全員の様々な研修参加を促し、内外部の研修参加をしています。毎日の業務の中で職員同士の意見交換により向上を図っています。	職員は希望により、常勤・非常勤を問わず社内研修や外部研修にも参加できるように支援しています。新入職員は早期に業務に慣れるため経験者が3日間指導するOJTにて人材育成を図っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は大和市グループホーム連絡会に参加して、他グループホームと定期的に意見交換をしています。職員間の交流も今年度行う予定になっています。近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、直接参加は見合わせている状況です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントを職員全員で共有しています。日々の会話、様子の中から不安なことを探り、傾聴しています。積極的にコミュニケーションをとり、話のしやすい関係づくり、信頼関係樹立のための働きかけを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	問い合わせ、申し込み、契約時などにアセスメントを行います。カンファレンスや申し送りボードを通して職員全員で情報を共有しています。家族の訴えに共感し、思いを聞き出せるように関係を深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	問い合わせ、相談時に話を聴き、アセスメントをして、その方にとってグループホーム入居が必要なのか話し合っています。ケアプランセンター、包括支援センターにも相談し、アドバイスをもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として、豊かな知識と経験において、話を聴き、教えていただいています。毎日の食事作り、洗濯、掃除など、職員と共に利用者ができることを行なっています。暮らしの中で冗談があり、笑顔が利用者、職員共に多いです。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、また、電話、メール等で連絡して近況を報告し、本人への支援の相談をしています。敬老会、餅つきなど行事には一緒に参加していただいています。準備や進行の手伝いをいただいています。家族との外出支援をしています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で参加を見合わせる行事がほとんどの状況です。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出の支援をしています。友人や親戚の方など面会者に対し、訪問しやすい環境を整えるように配慮しています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け実施という状況です。	入居者は家族と一緒に馴染みの店への食事や、墓参りにも行く人がいます。入居者の中には誕生会に故郷の思い出話をしてくれる人もいます。今までコロナ禍のため家族や友人など馴染みの人の来訪は中止となっていましたが現在は緩和されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が関わり合いを持てるように、職員が間に入り関係を持っています。居室を訪ねあい談笑していることもあります。自ら他利用者に関われない方には、孤立しないように気配りし、お互いを思い合える関係であるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族了承のもと、他施設へ移られた方を面会に訪れ、様子をワーカーに伝え合っています。家族からの連絡、相談にも対応しています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でほとんど実施できずという状況です。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中や、改めて要望があればそれらを会議で話し合い、本人の希望になるべく添えるように努めています。	入居者の日常の何気ない会話や行動、表情の中から思いや要望を汲み取っています。カンファレンスで検討し職員間で話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントを個人ケースに綴り、職員全員で情報を共有しています。入居前に把握できなかった生活歴や暮らし方を家族、利用者本人から得て、情報の把握につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌記録のほか、毎日の申し送りやカンファレンスでの報告、話し合いにより現状の把握をしています。必要に応じ、都度当日勤務者で話し合い、日々の変化にも対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族、主治医に近況を報告し意見をいただいています。本人には、日々の会話の中で困っていること、したいことを聞いています。ケースカンファレンスで一人ひとりの現状を把握、共通理解してケアのあり方の検討をし、それを計画書に反映させています。	介護計画は本人や家族の意向を汲み、ケースカンファレンスの中で職員から意見を参考にして作成しています。見直しは半年に一度、家族や主治医などの意見を反映して、現状に即した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子を個人ケース記録に、個別に出来るだけ詳細に記録しています。その記録に基づき、ケースカンファレンスで状況を報告し、ワーカー全員で情報を共有、対応を検討し、それを介護計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急な家族との外出にも、安心して家族と出かけられるようにしています。また、外出時の排泄、食事の仕方なども困らないようにアドバイスしています。入院時には、看護師、主治医との面談にも同席し、情報提供、対応の相談など行なっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け対応を実施しているという状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の阿波おどりに招かれています。地域のボランティアが行事の手伝いに来て下さります。地域防災協定を結び、災害時の相互協力を行うこととなっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できずという状況です。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望で訪問診療、またはかかりつけ医に受診することを決めていただいています。訪問診療の連絡、調整をしています。主治医、家族への報告を行っています。他かかりつけ医の受診時、血圧表などの提供、日常の様子を報告し支援しています。	ほとんどの入居者は協力医療機関の往診医と歯科医に月1回の訪問診療を受診しています。往診医からの勧めにより、セカンドオピニオンに入居前からのかかりつけ医に通院している人もいます。かかりつけ医からの情報は主治医や家族へ連絡をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に、日々の利用者の変化を報告し、アドバイスをもらっています。些細な変化も相談できます。また、体調変化がみられている時には、看護師からも連絡があり、状況報告を行なっています。連携して利用者の状況を把握しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院への情報提供をしています。面会を頻繁に行い、担当看護師、主治医からの説明を受け、随時情報交換をしています。退院指導など、家族と同席しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	面会時、または面談を設け、現状報告を随時行っています。体調変化がみられた時の家族の希望を確認、施設で出来ることの説明を行なっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け実施という状況です。	入居時に重度化対応の終末期ケアの対応指針について説明しています。看取り介護については、家族からの要望があれば、事業所としてできることとできないことなどを説明しています。いままでに看取り介護の経験はあります。	急変時や重度化に備えて、職員が共通認識を持ち、一層充実した終末期ケアに取り組むことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心肺蘇生法、AEDの使用方法、嚥下障害、緊急時の対応、救急搬送対応の勉強を行なっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で外部との連携実施については制限を設け実施という状況です。内部のみでの実施という状況です。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災、防災訓練を年2回行います。自治会の防災訓練に場所を提供し、一緒に避難訓練を行ってもらいます。地域と協定を結び、相互の協力をする事となっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できず施という状況です。	防災避難訓練は自治会と建物全体で地域防災協定を結び、相互に協力する覚書を結んでいます。火災、防災訓練は建物合同で年2回行い、歩行可能な利用者は非常階段を降りて屋外へ出る訓練をしています。コロナ禍で地域との合同訓練は中止となっています	訓練は日中と夜間想定 の訓練を期待されま す。また非常災害用に 備えて、食料・飲料水 以外の毛布などの備品 のリスト表で管理する ことが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接するように心がけています。人としての尊厳を大切にしています。日々、ケースカンファレンスで言葉遣いについて確認しています。利用者それぞれに、理解しやすい言葉を考えながら対応をしています。	管理者は人格に配慮した対応や否定的な言葉掛けをしないなど、自分の身に置き換えて考えるよう指導しています。不適切な対応が見られたときは、その都度職員同士で確認し合い、理解を深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で「どうしますか」等と問いかけをするよう努め、働きかけています。意思疎通が困難な利用者に対しては、表情の確認などで何を言おうとされているのか、共に理解できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れの中で、本人の意思を尊重しながら働きかけをしています。その日の体調や気分で居室で休まれたり、食堂で過ごされたりしています。家族との外出も自由にされています。外出に関してはここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で必用に応じ制限を設け実施という状況です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着るものを一緒に選べる方は、ご自分で選んでいます。気温にそぐわない時には、一緒に着替え直していただきます。自分で決められない方は、同じ服にならないように配慮しています。行事の時には普段されない利用者も口紅、マニキュアなどをつけ笑顔になられています。男性に関しても安全な髭剃り等で必要時髭剃り等を行っていただきながら身だしなみを整えています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人ひとりの力が発揮できるように、出来ることをしていただいています。食事作りではそれぞれの役割ができています。食事の時間を待っている利用者は多く、個々の好みも献立の中に取り入れています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で行事等のお食事等に関して制限を設け実施という状況です。	朝食と昼食は職員が調理し手作りの食事を提供しています。食材は近所の商店街へ入居者と一緒に買い物に行くこともあります。夕食は休日を除き1階のデイサービスからの配食となっています。入居者は食器拭きなどを手伝う人もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日で10品目取れるようにチェックして献立を考えています。水分摂取の働きかけをしています。毎日の食事量をチェックしています。食事量の少ない方は、ご本人の好むもので栄養を確保できるようにしています。体調変化時のみ日誌への水分量を記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全員が毎食後に口腔ケアを実施しています。各利用者の状態に応じて、声かけ、見守り、介助で対応しています。一人ひとりの状態に合わせて歯間ブラシ、スポンジなどを使用しています。夜間は義歯をお預かりして消毒しています。口腔内、気になることがあれば、訪問歯科医に相談、検診を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを検証して把握しています。介助の必要な方は、排泄時間をワーカー同士が共有し、必要な時に排泄誘導を行なっています。また、その方の排泄サインを見逃さないように見守り、トイレで排泄していただけるように支援しています。	健康状態チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別支援をしています。骨折などで入院し、おむつになっていた人が、退院後職員の誘導でリハビリパンツに改善された人もいます。トイレでの排泄に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘に良いとされる食材、メニューを取り入れています。便秘気味の方には、水分量を多く摂るようにしています。毎日ヨーグルトを召し上がっていただき、牛乳、プルーンなど随時使用しています。自分でできることはしていただき、身体を動かしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者は入浴を楽しみにしています。その日の体調や気分に合わせて入浴出来るように支援しています。その日の体調や気分に合わせて、時間は15時から17時の間に入浴しています。	入浴は基本的には週2～3回です。職員は入居者の全身状態の確認も含め入浴支援を行っています。季節に応じた菖蒲湯や柚子湯も楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者それぞれに、居室で休息しています。季節に合った寝具、温度の管理をしています。日中適度な活動が必要と判断した時には、仕事やレクリエーションの働きかけを行い起きていただくこともあります。入浴後から就寝までのリズムを作り安定させています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	変薬時だけでなく、状態の変化の様子観察しています。各利用者の処方箋をすぐに閲覧できるところで管理しています。薬の用途、副作用などを確認しています。往診医や薬剤師より説明を受け、疑問点などを問い合わせし、情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方の出来ることを見極め、調理、洗い物、掃除など家事において役割を持って行なえるように働きかけています。ボランティアによる演奏、誕生会、レクリエーション、季節ごとの行事などを行い、気分転換しています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け実施という状況です。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個人の楽しみ、外食などは家族と一緒に出掛けられています。外出時の準備を支援しています。近隣や1階に散歩に出かけています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設けたり、未実施もいくつかあるという状況です。	地域の夏のイベントである阿波踊りでは観覧席が用意されており、希望者は見に行くことができます。コロナ禍でドライブなど遠出の外出は自粛しています。近くの公園への散歩や、施設駐車場のベンチでの気分転換や、ベランダで外気浴などを楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には各利用者がお金の所持はしていません。買い物時にホームの支払いをしていただいています。財布、お金を持っていないと落ち着かない方には、ご自身で所持していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に確認のもと、本人希望時にはホームの電話を利用し、いつでも電話が出来るようにしています。携帯電話を使用することも、居室に電話を設置することも可能です。手紙の投函や、受け取りも行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられるように工夫した壁画を、利用者と共に飾り、皆さんと楽しんでいます。常に掃除をし清潔を保っています。TV、音楽のボリュームにも配慮しています。行事の写真を展示し、利用者は写真の前を通るたびに足を止めて楽しんでいます。	リビングは明るく掃除がよく行き届き清潔な空間となるよう心掛けています。掃除職員が各階に一人配置され、清潔を保っています。オープンキッチンにはダイニングテーブルがあり、廊下の壁面には入居者の習字や折り鶴、絵手紙、2階の保育園の園児の手形や行事の写真などを飾っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の意志で、食堂で過ごしたり、ソファで談話されたり、居室で休まれ、廊下ベンチで過ごすなど、その時々で移動され、自由に過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々に今まで使用していた家具を配置したり、壁には写真や絵をかけて、心地よく過ごせるようにしています。安全面において、椅子、テーブルに乗り危険があると判断した時には、家族に報告、相談し片付けるなどの対応をしています。	居室はクローゼット、ベッド、エアコン、照明器具、防災カーテンが備え付けてあります。入居者は馴染みの整理タンスや家族の写真を飾り、居心地よく過ごせる工夫をしています。居室の前には入居者の写真を貼り、自分の部屋と見分けが付きやすい工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりを設置しています。食堂は、キッチンと食卓に仕切りがなく、利用者がいつでも、流し、電磁調理器前に立てるようになっていました。居室とトイレのドアが似ているため、トイレのドアには大きくトイレと分かるように掲示しています。		

事業所名	大和YMCAグループホーム
ユニット名	Bユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「一人ひとりを大切にします」という分かりやすい理念を作り、一人ひとりの今まで生きて来た過程を尊重し、個別対応を心がけ、持っている思いを大切にしていこうと理念を共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所は町内会に参加、自治会の防災訓練に場所を提供し、グループホームの避難訓練も一緒に行っています。祭りの時など、職員が手伝いに出かけています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できていない状況です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	介護者教室などを開催する包括支援センターへの協力をこなっています。自治会の防災訓練など、地域の方々が集った場所で認知症の人の生活や理解力、支援方法などの話しをさせていただいています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できていない状況です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一回、定期的に運営推進会議を開催しています。行事や利用者の状態、また、ホームで対応に困っていることなどを報告し、アドバイスをいただいています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で書面での開催での実施という状況です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	二ヶ月に一回、定期的に開催している運営推進会議、大和市グループホーム連絡会にて報告しています。他、随時連絡、相談しています。ここ2年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で書面での開催実施という状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	勉強会、ケースカンファレンスの中で、身体拘束について学んでいます。言葉遣いも含め、職員が共有して拘束をしないケアの理解を深め、実践を心がけています。家族の理解をいただいて、玄関は施錠していません。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケースカンファレンスの中での勉強会やケース検討会議の中でとりあげています。また、言葉遣いなども再検討し、全員で話し合える時間を作っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や外部研修会の中で学ぶ場を設けています。必要に応じて資料を配布し知識を高めています。利用者に関わらず、家族から相談があれば、地域包括支援センターと協働し、成年後見制度などの説明を行い、アドバイスしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の問い合わせ、申し込みに応じて見学、アセスメントを行い、相談を受けています。契約時、解約時、改定時に不安や疑問点を聴き、説明を行なっています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族面会時に積極的に会話をし、利用者の近況を報告し、ホームに対する意見を伺っています。本人には、日々の生活の中で意見を聞き出しています。また、運営推進会議で家族の意見を聞いています。苦情窓口が市などにあることを契約時に説明しています。カンファレンス時においてもそういったご意見等を反映する機会として用いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常業務は職員が主体で行えるようにしています。日々、管理者に意見や提案をしています。勉強会、ケースカンファレンスで意見交換をし、業務をスムーズに行えるようにしています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談を行い、意見交換しています。また、随時代表者へ管理者が職員の状況を報告し、把握するように努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は管理者に対し、職員全員の様々な研修参加を促し、内外部の研修参加をしています。毎日の業務の中で職員同士の意見交換により向上を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は大和市グループホーム連絡会に参加して、他グループホームと定期的に意見交換をしています。職員間の交流も今年度行う予定になっています。近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、直接参加は見合わせている状況です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントを職員全員で共有しています。日々の会話、様子の中から不安なことを探り、傾聴しています。積極的にコミュニケーションをとり、話のしやすい関係づくり、信頼関係樹立のための働きかけを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	問い合わせ、申し込み、契約時などにアセスメントを行います。カンファレンスや申し送りボードを通して職員全員で情報を共有しています。家族の訴えに共感し、思いを聞き出せるように関係を深めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	問い合わせ、相談時に話を聴き、アセスメントをして、その方にとってグループホーム入居が必要なのか話し合っています。ケアプランセンター、包括支援センターにも相談し、アドバイスをもらっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩として、豊かな知識と経験において、話を聴き、教えていただいています。毎日の食事作り、洗濯、掃除など、職員と共に利用者が出来ることを行なっています。暮らしの中で冗談があり、笑顔が利用者、職員共に多いです。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時、また、電話、メール等で連絡して近況を報告し、本人への支援の相談をしています。敬老会、餅つきなど行事には一緒に参加していただいています。準備や進行の手伝いをいただいています。家族との外出支援をしています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で参加を見合わせる行事がほとんどの状況です。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出の支援をしています。友人や親戚の方など面会者に対し、訪問しやすい環境を整えるように配慮しています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け実施という状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士が関わり合いを持てるように、職員が間に入り関係を持っています。居室を訪ねあい談笑していることもあります。自ら他利用者に関われない方には、孤立しないように気配りし、お互いを思い合える関係であるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	家族了承のもと、他施設へ移られた方を面会に訪れ、様子をワーカーに伝え合っています。家族からの連絡、相談にも対応しています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響でほとんど実施できずという状況です。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話の中や、改めて要望があればそれらを会議で話し合い、本人の希望になるべく添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメントを個人ケースに綴り、職員全員で情報を共有しています。入居前に把握できなかった生活歴や暮らし方を家族、利用者本人から得て、情報の把握につとめています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌記録のほか、毎日の申し送りやカンファレンスでの報告、話し合いにより現状の把握をしています。必要に応じ、都度当日勤務者で話し合い、日々の変化にも対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族、主治医に近況を報告し意見をいただいています。本人には、日々の会話の中で困っていること、したいことを聞いています。ケースカンファレンスで一人ひとりの現状を把握、共通理解してケアのあり方の検討をし、それを計画書に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の様子を個人ケース記録に、個別に出来るだけ詳細に記録しています。その記録に基づき、ケースカンファレンスで状況を報告し、ワーカー全員で情報を共有、対応を検討し、それを介護計画書に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急な家族との外出にも、安心して家族と出かけられるようにしています。また、外出時の排泄、食事の仕方なども困らないようにアドバイスしています。入院時には、看護師、主治医との面談にも同席し、情報提供、対応の相談など行なっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け対応を実施しているという状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の阿波おどりに招かれています。地域のボランティアが行事の手伝いに来て下さります。地域防災協定を結び、災害時の相互協力を行うこととなっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できずという状況です。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望で訪問診療、またはかかりつけ医に受診することを決めていただいています。訪問診療の連絡、調整をしています。主治医、家族への報告を行っています。他かかりつけ医の受診時、血圧表などの提供、日常の様子を報告し支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	往診時に、日々の利用者の変化を報告し、アドバイスをもらっています。些細な変化も相談できます。また、体調変化がみられている時には、看護師からも連絡があり、状況報告を行なっています。連携して利用者の状況を把握しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院への情報提供をしています。面会を頻繁に行い、担当看護師、主治医からの説明を受け、随時情報交換をしています。退院指導など、家族と同席しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	面会時、または面談を設け、現状報告を随時行っています。体調変化がみられた時の家族の希望を確認、施設で出来ることの説明を行なっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け実施という状況です。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	心肺蘇生法、AEDの使用方法、嚥下障害、緊急時の対応、救急搬送対応の勉強を行なっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で外部との連携実施については制限を設け実施という状況です。内部のみでの実施という状況です。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災、防災訓練を年2回行います。自治会の防災訓練に場所を提供し、一緒に避難訓練を行ってもらいます。地域と協定を結び、相互の協力をする事となっています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できずという状況です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って接するように心がけています。人としての尊厳を大切にしています。日々、ケースカンファレンスで言葉遣いについて確認しています。利用者それぞれに、理解しやすい言葉を考えながら対応をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で「どうですか」等と問いかけをするよう努め、働きかけています。意思疎通が困難な利用者に対しては、表情の確認などで何を言おうとされているのか、共に理解できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の流れの中で、本人の意思を尊重しながら働きかけをしています。その日の体調や気分で居室で休まれたり、食堂で過ごされたりしています。家族との外出も自由にされています。外出に関してはここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で必用に応じ制限を設け実施という状況です。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着るものを一緒に選べる方は、ご自分で選んでいます。気温にそぐわない時には、一緒に着替え直していただきます。自分で決められない方は、同じ服にならないように配慮しています。行事の時には普段されない利用者も口紅、マニキュアなどをつけ笑顔になられています。男性に関しても安全な髭剃り等で必要時髭剃り等を行っていただきながら身だしなみを整えております。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者一人ひとりの力が発揮できるように、出来ることをしていただいています。食事作りではそれぞれの役割ができています。食事の時間を待っている利用者は多く、個々の好みも献立の中に取り入れています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で行事等のお食事等に関して制限を設け実施という状況です。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日で10品目取れるようにチェックして献立を考えています。水分摂取の働きかけをしています。毎日の食事をチェックしています。食事量の少ない方は、ご本人の好むもので栄養を確保できるようにしています。体調変化時のみ日誌への水分量を記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全員が毎食後に口腔ケアを実施しています。各利用者の状態に応じて、声かけ、見守り、介助で対応しています。一人ひとりの状態に合わせて歯間ブラシ、スポンジなどを使用しています。夜間は義歯をお預かりして消毒しています。口腔内、気になることがあれば、訪問歯科医に相談、検診を受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを検証して把握しています。介助の必要な方は、排泄時間をワーカー同士が共有し、必要な時に排泄誘導を行なっています。また、その方の排泄サインを見逃さないように見守り、トイレで排泄していただけるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘に良いとされる食材、メニューを取り入れていています。便秘気味の方には、水分量を多く摂るようにしています。毎日ヨーグルトを召し上がっていただき、牛乳、プルーンなど随時使用しています。自分でできることはしていただき、身体を動かしています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者は入浴を楽しみにしています。その日の体調や気分に合わせて入浴出来るように支援しています。その日の体調や気分に合わせて、時間は15時から17時の間に入浴しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者それぞれに、居室で休息しています。季節に合った寝具、温度の管理をしています。日中適度な活動が必要と判断した時には、仕事やレクリエーションの働きかけを行い起きていただくこともあります。入浴後から就寝までのリズムを作り安定させています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	変薬時だけでなく、状態の変化の様子を観察しています。各利用者の処方箋をすぐに閲覧できる場所で管理しています。薬の用途、副作用などを確認しています。往診医や薬剤師より説明を受け、疑問点などを問い合わせし、情報を共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その方の出来ることを見極め、調理、洗い物、掃除など家事において役割を持って行なえるように働きかけています。ボランティアによる演奏、誕生会、レクリエーション、季節ごとの行事などを行い、気分転換しています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設け実施という状況です。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個人の楽しみ、外食などは家族と一緒に出かけられています。外出時の準備を支援しています。近隣や1階に散歩に出かけています。ここ近年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で制限を設けたり、未実施もいくつかあるという状況です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には各利用者がお金の所持はしていません。買い物時にホームの支払いをしていただいています。財布、お金を持っていないと落ち着かない方には、ご自身で所持していただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に確認のもと、本人希望時にはホームの電話を利用し、いつでも電話が出来るようにしています。携帯電話を使用することも、居室に電話を設置することも可能です。手紙の投函や、受け取りも行っています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じられるように工夫した壁画を、利用者と共に飾り、皆さんと楽しんでいます。常に掃除をし清潔を保っています。TV、音楽のボリュームにも配慮しています。行事の写真を展示し、利用者は写真の前を通るたびに足を止めて楽しんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者の意志で、食堂で過ごしたり、ソファで談話されたり、居室で休まれ、廊下ベンチで過ごすなど、その時々で移動され、自由に過ごされています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々に今まで使用していた家具を配置したり、壁には写真や絵をかけて、心地よく過ごせるようにしています。安全面において、椅子、テーブルに乗り危険があると判断した時には、家族に報告、相談し片付けるなどの対応をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりを設置しています。食堂は、キッチンと食卓に仕切りがなく、利用者がいつでも、流し、電磁調理器前に立てるようになっていました。居室とトイレのドアが似ているため、トイレのドアには大きくトイレと分かるように掲示しています。		

2022年度

事業所名

作成日：2023年1月30日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		災害等の備品の補充と整備	現在の備品に加え、非常時に必要な備品を再考し、必要な備品を揃え、備品リストを再作成する。	スタッフミーティングや館全体職員会等で被災後3日間必要な生活必需品等を再考、精査し、不足備品に関しては早急に補充し、来るべき時の備えをしておく。	6ヶ月
2		管理者および介護員の研修機会が減っている。	WEB等を利用した外部研修等への参加。内部研修会の定期的開催を更に強化する。	大和深見地域包括支援センターと協働し、感染症、拘束ゼロへの取り組み、認知症介護、看取りなど様々な研修に関する情報を収集し、WEBや実際の研修会場へ足を運ぶ等外部研修への参加を促し、参加者は現在実施している月に一度の内部研修会の中で、研修の内容をフィードバックし、知識を共有し、深め、それを活かし、チームでそれぞれを実践していくことに繋げていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月